

令和2年度入学 推薦入試(一般・特別)、震災特別推薦入試、社会人入試 試験問題の出典
盛岡短大部生活科学科

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	生活デザイン 専攻	小原 二郎	新版 暮らしの中の 人間工学	実教出版, 2011年より pp. 43-46	実教出版
	食物栄養学 専攻	宮崎 純一	「患者の言葉を読み 取れず受身姿勢だっ た自分を反省」 栄養士応援企画 「管理栄養士人生の なかで今も忘れられ ない言葉がある」	『ヘルスケア・レス トラン』 第27巻・第9号, 日本医療企画 2019年より pp. 36-37	日本医療 企画

令和2年度 推薦入試（一般）
推薦入試（特別）
震災特別推薦入試
社会人入試

短期大学部

小 論 文 (90分)

学科・専攻名	ページ
生活科学科 生活デザイン専攻	1～2
生活科学科 食物栄養学専攻	3～4
国際文化学科	5～6

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 志望する学科・専攻により問題並びに解答用紙が異なるので注意ください。
- 3 この問題冊子は6ページあります。なお、下書き用紙が1枚あります。
- 4 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合には手を挙げて試験監督員に知らせください。
- 5 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペン・万年筆などを使用してはいけません。
- 6 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入ください。
- 7 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入ください。
- 8 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用ください。
- 9 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りください。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

デザインという言葉が戦後ひろく普及した。最近では、デザインブームなどともいわれている。

よいデザインは確かにわれわれの生活を楽しく、能率よくするために大切なものではあるが、いまわが国で使われているこの言葉は、本来の意味とはやや異なった内容で受けとられている場合が少なくない。それを端的にあらわすのは、日常よく使われる「この道具は使いにくいだが、デザインはなかなかよい」という言葉である。

よいデザインとは、使いやすさということが、まず第一に満たされなければならないのであるから、これははなはだ矛盾したいい方である。つまり、それが通用しているところにデザインの基本的な問題があるわけである。機械工学あたりでもデザインということばを使うし、建築でもデザインというが、この場合はそのなかには、かなり計数的な機能に関する内容が含まれていると考えてよい。デザインはふつう“意匠”と訳されているが、そうした意味では、むしろ“設計”という言葉のほうが内容を忠実にあらわしているように思われる。

一般にいわれているデザインという言葉は、ごく表面的な形と色だけをさすことが多い。

いいかえれば、単なるスタイリングをデザインとよんでいるわけである。それは最初に、このことばの厳密な定義を考えないで、ただ耳新しさのゆえに乱用してしまったからであるが、私はむしろ“設計”という意味に解したほうがよいと思う。

ところでちかごろデザインの分野からも、人間工学[※]という言葉が注目をあびるようになってきた。

だが私はこの言葉が、いまの形のままで普及することには、いささか疑問をもっている。というのは、人間工学は設計とは密接に結びつくが、いわゆるスタイリングとは関連がうすい。だからこの言葉をスタイリング的デザインのための用語だと理解してしまうと、先にあげたデザインと、同じような混乱を生むおそれがある。われわれが人間工学をデザインに応用できるのは、その考え方と研究の方法とであって、人間工学そのものではない。

それならデザインと人間とは、どのような形で結びつくのであろうか。ごく大まかに私は、次のように考えたらわかりやすいと考えている。

デザインを大まかに区別すると、機能を強く要求するデザインと、それほどには要求しないデザインとに分けることができる。前者はたとえば工業デザインで、後者はクラフトデザインのようなものだと考えればよい。ところで機能を要求するデザインのためには、何らかの方法でそれを数量的に計測することが必要になってくる。それにはいくつかの手段が考えられるであろうが、その有力な方法のひとつに人間工学がある。つまり人間工学は機能を数量的に表示するための有効な手段として、デザインと結びつくという考え方である。ということは、人間工学は、確かに有力なひとつの武器ではあるが、しかしそれは、あくまでもデザインのための手段であって、それがすべてを解決してくれるものではないという意味である。この本末を誤ることは深く戒められなければならない。われわれの

立場は人間工学の底流にあるものを汲みとって、それをデザインに生かすことにあると考えてよいであろう。

そのように考えるならば、デザインのための人間工学というのは、ひところはやった機能主義のリバイバルではないか、という意見もでてくるであろう。確かにそういっても、現段階では大きな誤りではなさそうである。しかし人間工学の場合には、心理までを含めて、人間というものをもっと多角的にとらえて、より人間的な立場からの追求に重点がおかれているところに、ニュアンスの差があるといつてよいであろう。

(小原二郎『新版 暮らしの中の人間工学』, pp.43-46, 実教出版, 2011年より, 一部改変)

注 人間工学：人間工学とは、あるシステムにおける人間とその他の要素との相互作用を理解するための科学的学問であり、人間の安寧（穏やかで安定していること）とシステムの総合的性能の最適化を図るため、理論・原則・データ・設計方法を有効活用する独立した専門領域である。

問1 作者が捉えている人間工学とデザインとの関係を、100字以上150字以内で述べなさい。

問2 問1を踏まえて、あなたが今後学習したいと考えている対象物のデザインについて、デザインする過程で大切だと思われる要素を500字以上600字以内でまとめなさい。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

当院に転職し2年ほど経った頃、緩和ケア病棟^{注1}での出来事で痛感したことがあります。

旦那さんが献身的にサポートしている、70代の女性の患者さんがいました。緩和ケア病棟は、管理栄養士が毎日訪室すると、食事に対するプレッシャーを感じる人が少なくないため、看護師と相談し、状況をみて訪問するようにしていました。

その患者さんには個別対応食でサイクルを組み、毎日、同様の食事内容で提供していました。食事内容に問題はないか、看護師を通じて確認していましたが、特に変更の希望はなく、大丈夫とのことでした。

ある日、偶然、ミールラウンド^{注2}中に声が聞こえたため訪室すると、ほとんど手つかずのままの食事が目につきました。そして、ちょうど旦那さんが、皮をむいて食べやすくしたトマトを患者さんに食べさせていました。

その場で旦那さんから「毎回、同じような食事を出していて何とも思わなかったのか」と叱責を受け、さらに胸の名札をつかまれながら、「食べ具合を見てメニューを考えるのが国家資格の管理栄養士じゃないのか」と言われました。何を言っても言い訳になるので、ただただ聞くだけでした。

毎日、同様の内容を好む患者さんもいます。ただ、この患者さんの場合、食事変更の希望がなかったのは満足していたのではなく、「(病院食に期待はせず)これで大丈夫です」という意味だった事実を、旦那さんの話から理解しました。誠意を込めて謝罪したうえで、もう一度かかわらせてほしいと申し出ました。

自分が直接配膳して食事の様子を見守ったり、旦那さんと相談しながらメニューを検討したりするなかで、徐々に食べられるものが増えていきました。受身でなく、患者さんの訴えを聞く機会を自らつくって傾聴することが、大切だと痛感した経験でした。

(宮崎純一「患者の言葉を読み取れず受身姿勢だった自分を反省」栄養士応援企画「管理栄養士人生のなかで今も忘れられない言葉がある」『ヘルスケア・レストラン』第27巻・第9号、pp. 36-37、日本医療企画、2019年より、一部改変)

注1 緩和ケア病棟：一般病棟や在宅ケアでは対応困難な心身の苦痛がある患者への対応や、患者が人生の最期の時期を穏やかに迎えることを目的とした入院施設。

注2 ミールラウンド：医師、管理栄養士、看護師等、複数の職種が共同して入所者の栄養管理をするために行う食事の観察及び会議。

問1 作者が下線部のような経験に至ったのは、どのような経緯によるものであるか、150字以上200字以内で述べなさい。

問2 本文では、患者に相對する際に、受身ではなく、訴えを聞く機会を自らつくって傾聴することが大切であると述べている。こうしたことについて、あなたのこれまでの経験も交え、これから栄養士をめざすうえで、どのように相手に対応していこうと考えるか、600字以内で述べなさい。